

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成27年6月29日

【事業年度】 第162期(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

【会社名】 天龍製鋸株式会社

【英訳名】 Tenryu Saw Mfg. Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西藤晋吉

【本店の所在の場所】 静岡県袋井市浅羽3711番地

【電話番号】 0538-23-6111(代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 堀内敏晴

【最寄りの連絡場所】 静岡県袋井市浅羽3711番地

【電話番号】 0538-23-6111(代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 堀内敏晴

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第158期	第159期	第160期	第161期	第162期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (千円)	7,081,517	7,637,324	8,006,768	8,951,946	10,026,228
経常利益 (千円)	850,967	948,108	1,219,843	1,153,830	1,656,455
当期純利益 (千円)	552,605	665,270	704,629	740,849	1,005,463
包括利益 (千円)	427,989	478,706	1,594,185	2,112,068	2,008,912
純資産額 (千円)	19,063,030	19,374,775	20,768,698	22,705,185	23,845,369
総資産額 (千円)	21,115,822	21,359,516	22,965,581	25,657,382	26,954,702
1株当たり純資産額 (円)	4,000.33	4,065.82	4,358.39	4,764.82	5,122.82
1株当たり当期純利益金額 (円)	106.44	139.61	147.87	155.47	213.12
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	90.3	90.7	90.4	88.5	88.5
自己資本利益率 (%)	2.8	3.5	3.5	3.4	4.3
株価収益率 (倍)	19.5	16.2	14.7	15.8	12.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,249,857	640,947	1,012,838	950,168	985,446
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	177,928	1,153,728	328,373	712,948	1,842,100
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,209,487	167,879	192,150	210,736	767,849
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,287,796	3,553,687	4,847,816	5,155,355	3,794,515
従業員数 (名)	934	885	860	956	1,040

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第158期	第159期	第160期	第161期	第162期
決算年月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月
売上高 (千円)	6,756,462	7,266,995	7,419,965	8,067,301	8,641,009
経常利益 (千円)	648,028	792,085	1,153,157	1,407,137	1,612,714
当期純利益 (千円)	431,092	581,374	732,434	1,085,994	1,083,539
資本金 (千円)	581,335	581,335	581,335	581,335	581,335
発行済株式総数 (株)	5,573,817	5,573,817	5,573,817	5,573,817	5,573,817
純資産額 (千円)	17,995,290	18,300,365	19,225,164	20,573,499	21,149,584
総資産額 (千円)	20,079,872	20,297,851	21,384,008	23,342,268	23,810,109
1株当たり純資産額 (円)	3,776.27	3,840.36	4,034.47	4,317.47	4,543.67
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	35.00 ( )	42.00 ( )	45.00 ( )	102.00 ( )	70.00 ( )
1株当たり当期純利益金額 (円)	83.03	122.00	153.70	227.90	229.67
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	89.6	90.2	89.9	88.1	88.8
自己資本利益率 (%)	2.4	3.2	3.9	5.5	5.2
株価収益率 (倍)	25.0	18.5	14.1	10.8	11.8
配当性向 (%)	42.2	34.4	29.3	44.8	30.5
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕 (名)	194 〔 〕	186 〔 〕	178 〔 〕	185 〔 〕	183 〔 21 〕

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。  
2 平成26年3月期の1株当たり配当額102円には、設立100周年記念配当55円を含んでおります。  
3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。  
4 第158期～第161期の従業員数欄の平均臨時雇用人員については、従業員の100分の10未満であるため記載を省略しております。

2 【沿革】

年月	概要
大正2年10月	天龍製鋸株式会社を設立
大正7年5月	東京支店を東京都深川区に設置(昭和20年4月戦時罹災のため閉鎖)
大正8年7月	大阪支店を大阪市北区に設置
大正8年9月	秋田出張所を秋田市に設置
大正9年4月	技術員2名を英国に派遣、木工用丸鋸の製造方法を修得し、帰国後わが国最初の製鋸事業に成功
昭和5年8月	商工省より木工用丸鋸が優良国産品に選定される
昭和12年11月	大阪支店を大阪市大正区に移転(昭和19年10月戦時罹災のため閉鎖)
昭和21年8月	東京出張所を東京都日本橋区(現中央区)に設置
昭和23年2月	大阪出張所を大阪市西区に設置
昭和25年12月	木工用丸鋸に対し、日本工業規格(JIS)工場に指定される
昭和32年10月	東京、大阪、秋田各出張所を東京支店、大阪支店、秋田支店に昇格
昭和35年3月	電動工具用丸鋸の生産開始
昭和38年10月	チップソーの生産開始
昭和40年5月	ダイヤモンドソー基板の生産開始
昭和47年4月	九州営業所を熊本市に設置(昭和62年4月廃止)
昭和47年12月	関係会社(株)パス(帯鋸の加工)、(株)カケン(ダイヤモンドカッティングソーの製造)設立
昭和48年1月	北陸営業所を富山市に設置
昭和48年12月	大韓民国に、合併会社英昌刃物(株)(ダイヤモンドソー基板の加工)設立
昭和51年5月	関係会社(株)ギケン(各種目立機他製造)設立
昭和59年2月	本社及び工場を静岡県磐田郡浅羽町(現静岡県袋井市)に移転
昭和59年5月	メタルチップソーの生産開始
昭和63年11月	社団法人 日本証券業協会 東京・名古屋地区協会に店頭登録
平成3年8月	大阪支店を東大阪市に移転
平成4年2月	大韓民国の合併会社英昌刃物(株)との合併関係を解消
平成4年4月	(株)カケン、(株)ギケン及び(株)パスを吸収合併
平成5年10月	北海道営業所を旭川市に設置(平成12年6月秋田支店へ統合)
平成6年7月	中華人民共和国に、大韓民国の英昌刃物(株)との合併で天龍製鋸(中国)有限公司(チップソー等の製造販売)設立
平成7年3月	東京支店を千葉県習志野市に移転
平成8年5月	アメリカ合衆国に、TENRYU AMERICA, INC.(チップソー等の販売)設立
平成12年9月	天龍製鋸(中国)有限公司の英昌刃物(株)の持分をすべて取得し、100%出資子会社とした
平成14年7月	中華人民共和国の龍運工具(廊坊)有限公司(カッター類の製造販売)へ出資
平成16年11月	タイ王国に、TENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD.(チップソー等の製造加工・販売)設立
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成21年9月	ドイツ連邦共和国に、TENRYU EUROPE GMBH(チップソー等の販売)設立
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
平成23年9月	インド共和国に、TENRYU SAW INDIA PRIVATE LIMITED(チップソー等の販売)設立
平成24年9月	メキシコ合衆国に、TENRYU SAW DE MEXICO, S.A. DE C.V.(チップソー等の販売)設立
平成25年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社と連結子会社4社と非連結子会社3社で構成されており、鋸・刃物類の製造、加工及び販売を主な事業内容としております。事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

(1) 生産体制...国内においては、当社が生産し、海外においては、天龍製鋸(中国)有限公司、龍蓮工具(廊坊)有限公司及びTENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD.が生産しております。

(2) 販売体制...当社では、国内及び海外に販売しております。

TENRYU AMERICA, INC. では、米国市場を中心に販売しております。

天龍製鋸(中国)有限公司では、中国市場を中心に販売しております。

龍蓮工具(廊坊)有限公司では、中国市場を中心に販売しております。

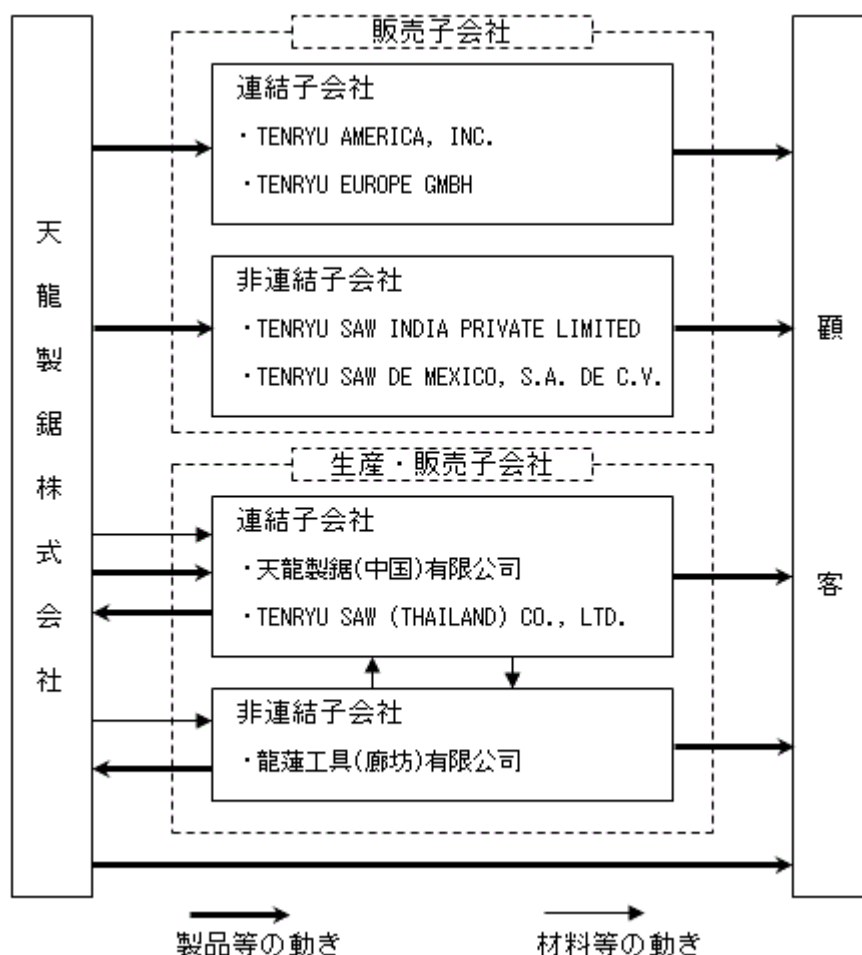
TENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD.では、タイ市場を中心に販売しております。

TENRYU EUROPE GMBHでは、欧州市場を中心に販売しております。

TENRYU SAW INDIA PRIVATE LIMITEDでは、インド市場を中心に販売しております。

TENRYU SAW DE MEXICO, S.A. DE C.V.では、メキシコ市場を中心に販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な 事業の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割 合(%)	
(連結子会社) 天龍製鋸(中国) 有限公司 (注) 1, 3	中国 河北省 廊坊市	10億円	チップソー等 の製造加工・ 販売	100.0		当社より商品・原材料を購 入し、製品を当社に販売し ております。 役員の兼任 3名
TENRYU AMERICA, INC. (注) 1, 3	アメリカ ケンタッキー 州 ヘブロン市	4,500千 US\$	チップソー等 の販売	100.0		当社のチップソー等を販売 しております。 役員の兼任 3名
TENRYU SAW(THAILAND) CO., LTD. (注) 1	タイ ラヨーン県 ブワックデー ン市	338,000千 バーツ	チップソー等 の製造加工・ 販売	100.0		当社より商品・原材料を購 入し、製品を当社に販売し ております。 役員の兼任 3名
その他1社						

- (注) 1 特定子会社であります。  
2 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している子会社はありません。  
3 天龍製鋸(中国)有限公司及びTENRYU AMERICA, INC.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	天龍製鋸(中国)有限公司	TENRYU AMERICA, INC.
売上高	3,170,245千円	1,427,877千円
経常利益	177,655千円	208,591千円
当期純利益	141,878千円	132,915千円
純資産額	3,185,099千円	1,017,763千円
総資産額	3,963,012千円	1,403,018千円

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	183
アジア	839
アメリカ	13
ヨーロッパ	5
合計	1,040

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 臨時従業員については、従業員の100分の10未満であるため、記載を省略しております。  
3 前連結会計年度末に比べ従業員数が84名増加しております。主な理由は、天龍製鋸(中国)有限公司の採用に伴うものであります。

##### (2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
183 (21)	44.1	20.5	5,922,818

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
4 提出会社のセグメントの名称は「日本」であります。

##### (3) 労働組合の状況(平成27年3月31日現在)

提出会社には天龍製鋸労働組合があります。また、天龍製鋸(中国)有限公司においても労働組合が結成されております。提出会社及び連結子会社(以下「当社グループ」という。)の組合員数は786名で、提出会社の労働組合は産業別労働組合「AM」に加盟しております。

なお、労使間は円満に推移しております。

その他の特記事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、米国では住宅投資や設備投資が堅調に推移し緩やかな回復が続いております。欧州では長引く債務問題に加えロシア経済の減速の影響などにより弱さが見られます。中国では公共投資・個人消費が下支えしているものの不動産市場の調整などにより成長が鈍化しております。新興国においては一部に勢いを欠く状態が続いております。

わが国経済は、企業収益改善による設備投資増加や円安による輸出増などにより緩やかな回復が続いている一方、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化で耐久財消費や住宅関連には弱めの動きが見られません。

当社グループにおいては、国内市場は新築住宅着工戸数が減少するなど厳しい状況となりましたが、海外市場での積極的な販売体制の強化及び円安効果により、連結売上高は10,026百万円（前年同期比12.0%増）となりました。利益面につきましては、生産性の向上によるコスト低減と為替の影響などにより、営業利益1,329百万円（前年同期比44.9%増）、経常利益1,656百万円（前年同期比43.6%増）となりました。当期純利益は投資有価証券評価損65百万円などの計上により1,005百万円（前年同期比35.7%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 日本

国内では製材木工用チップソーの減少があったものの、海外向け金属用チップソー及び住宅資材用チップソーが好調に推移し、売上高は8,641百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益（営業利益）は1,062百万円（前年同期比31.1%増）となりました。

#### アジア

金属用チップソーなどの販売が好調に推移したことにより、売上高は3,668百万円（前年同期比23.9%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は為替の影響はあったものの生産性の向上によるコスト低減で18百万円（前年同期は95百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。

#### アメリカ

住宅資材用チップソー及び金属用チップソーが引き続き好調に推移し、売上高は1,427百万円（前年同期比20.4%増）、セグメント利益（営業利益）は217百万円（前年同期比25.2%増）となりました。

#### ヨーロッパ

当連結会計年度より、TENRYU EUROPE GMBHを連結の範囲に含めたことに伴い、セグメントの区分を見直し、新たに「ヨーロッパ」を追加しております。

金属用チップソーの販売が堅調に推移し、売上高は513百万円、セグメント利益（営業利益）は60百万円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

営業活動のキャッシュ・フローでは、税金等調整前当期純利益の計上などにより、985百万円のキャッシュを得ました。（前連結会計年度は、950百万円を得ました。）

投資活動のキャッシュ・フローでは、投資有価証券の取得による支出などにより、1,842百万円のキャッシュを使用しました。（前連結会計年度は、712百万円を使用しました。）

財務活動のキャッシュ・フローでは、配当金の支払いなどにより、767百万円のキャッシュを使用しました。（前連結会計年度は、210百万円を使用しました。）

以上の結果、現金及び現金同等物期末残高は、3,794百万円（前年同期比26.4%減）となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
日本	3,251,184	14.3
アジア	4,297,228	25.0
アメリカ		
ヨーロッパ		
合計	7,548,413	20.1

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記金額は、平均販売価格によっております。

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 仕入実績

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
日本	2,883,152	15.3
アジア	109,201	
アメリカ		
ヨーロッパ	114,314	
合計	3,106,667	24.2

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記金額は、平均販売価格によっております。

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注実績

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
日本	6,581,917	6.3	599,543	26.3
アジア	1,320,069	36.5	189,891	10.5
アメリカ	1,455,186	18.6	144,892	29.9
ヨーロッパ	477,428		108,388	
合計	9,834,602	6.7	1,042,715	8.3

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (4) 販売実績

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
日本	6,796,002	0.4
アジア	1,342,255	42.3
アメリカ	1,421,878	19.9
ヨーロッパ	466,093	
合計	10,026,228	12.0

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)マキタ	1,393,543	15.6	1,477,758	14.7

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。



### 3 【対処すべき課題】

日本経済は円安・原油安などによる緩やかな回復が続くと期待されるものの、個人消費に盛り上がりが見られず、不透明な状況が続くものと考えられます。海外においても、米国では民需を中心に持ち直しつつありますが、欧州・中国などの経済情勢は不透明で、予断を許さない状況となっております。

こうした状況下、当社グループでは海外販売の強化、顧客ニーズへの機動的な対応、高付加価値製品の開発、国内外生産体制の強化などを経営課題とし、全社一丸となって取り組んでまいります。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

#### 株式会社の支配に関する基本方針

##### (1) 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務及び事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式の大量買付であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかし、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値や株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

特に、当社株式の大量買付を行う者が、当社の財務及び事業の内容を理解するのは勿論のこと、当社の企業価値の源泉を理解した上で、これらの中長期的に確保し、向上させられるのであれば、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。また、外部者である買収者からの大量買付の提案を受けた際に、株主の皆様が最善の選択を行うためには、当社の企業価値を構成する有形無形の要素を適切に把握するとともに、買収者の属性、大量買付の目的、買収者の当社の事業や経営についての意向、既存株主との利益相反を回避する方法、従業員その他のステークホルダーに対する対応方針等の買収者の情報も把握した上で、買付が当社の企業価値や株主共同の利益に及ぼす影響を判断する必要があり、かかる情報が明らかにされないまま大量買付が強行される場合には、当社の企業価値・株主共同の利益が毀損される可能性があります。

当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

##### (2) 基本方針の実現に資する特別な取組みの内容の概要

当社は企業価値の最大化を実現するため、海外への販売を強化するための取り組みを行っております。中国及びアメリカに加え、ヨーロッパ、タイ、インド等へ事業展開を行っております。

世界中のお客様より信頼され期待される品質の維持・向上を目指しており、高性能鋸製造機械や表面処理用新型設備の導入などを行っております。今後も最新の鋸製造設備の導入や生産システムの構築に投資してまいります。

当社は、これらの取組みを基礎とし、鋸・刃物のパイオニアとして先進技術の開発を進めると同時に、海外生産拠点として従来の中国に加え、タイに新工場を建設し、顧客ニーズに対応する生産能力、国際競争力の強化を目指してまいります。新興国市場に向けたエリア別・用途別・価格別・寸法別等に体系化された戦略的製品の開発を行い、営業力の強化に取り組んでまいります。

また、グループ会社間の連携による効率的な生産体制の構築、物流効率化による配送コスト削減、原材料の最適化などコスト低減と更なる経費節減に取り組み、安定した収益確保を目指してまいります。

当社はこれらに加えて、M & Aや業務・資本提携も視野に入れつつ、さらに企業価値を向上させる諸施策を実施してまいります。

さらに、当社は、継続的な企業価値の向上を実現していくためにコーポレート・ガバナンスを経営上の最重要事項の一つとして認識しており、強固なコーポレート・ガバナンスの構築により企業の効率性・透明性を充実させ、株主をはじめとするステークホルダーに対する公正な経営を目指し、独立性のある社外取締役を選任して透明性のある経営を実現するとともに、独立性のある社外監査役2名を含む監査役会が取締役の業務執行を監視し、経営監視機能を高めております。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（本プラン）の内容の概要

本プランの目的

本プランは、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値・株主共同の利益に反する大量買付を抑止するとともに、大量買付が行われる際に、当社取締役会が株主の皆様へ代替案を提案したり、あるいは株主の皆様にかかる大量買付に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保すること、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としております。

本プランの概要

本プランは、当社株券等の20%以上を取得しようとする者が現れた際に、買収者に事前の情報提供を求めるなど、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。買収者は、本プランに係る手続に従い、当社取締役会において本プランを発動しない旨が決定された場合に、当該決定時以降に限り当社株券等の大量買付を行うことができるものとされています。

当社は、本プランにおける対抗措置の発動の判断について、取締役の恣意的判断を排するため、当社経営陣から独立した当社社外取締役等のみから構成される独立委員会の客観的な判断を経るものとしております。

買収者は、買付等の開始又は実行に先立ち、買付等の内容の検討に必要な所定の情報を提供するものとされ、また、独立委員会は、当社取締役会に対しても、買収者の買付等の内容に対する意見や代替案等の情報を提供できるよう要求することができます。

独立委員会は、買収者が本プランに規定する手続を遵守しなかった場合、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買収である場合などで、かつ新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、当社取締役会に対して、対抗措置として、買収者等による権利行使は原則として認められないとの行使条件及び当社が買収者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権を、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てるべきことを勧告します。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重して、新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する決議を行います。また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の場合には、株主総会を招集し、新株予約権の無償割当ての実施等に関する株主の意思を確認することがあります。

本プランに従って新株予約権の無償割当てがなされ、その行使又は当社による取得に伴って買収者以外の株主の皆様へ当社株式が交付された場合には、買収者の有する当社の議決権割合は、最大50%まで希釈化される可能性があります。

本プランの有効期間は、原則として、平成25年6月27日開催の当社第160期事業年度に係る定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとなっております。

(4) 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の国際的な競争力を強化するための取組み及びコーポレートガバナンスの強化等の各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、当社株券等に対する買付等が行われた際に、当社の企業価値・株主共同の利益を確保することを目的として導入されるものであり、当社の基本方針に沿うものです。特に、本プランについては、「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則の要件を完全に充足していること、当社第160期事業年度に係る定時株主総会において株主の皆様の承認を得ていること、一定の場合に本プランの発動の是非について株主意思確認総会において株主意思を確認することとしていること、及び株主総会決議によりいつでも本プランを廃止できるとされていること等株主意思を重視するものであること、独立性を有する社外取締役等のみによって構成される独立委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家等の助言を受けることができるとされていること等により、その公正性・客観性が担保されており、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(注)当社は、平成22年5月21日開催の当社取締役会及び同年6月29日開催の当社第157期事業年度に係る定時株主総会の決議に基づき更新した当社株式の大量取得行為に関する対応策の有効期間が平成25年6月27日開催の当社第160期事業年度に係る定時株主総会終結の時までとされていたことから、平成25年6月11日開催の当社取締役会及び平成25年6月27日開催の当社第160期事業年度に係る定時株主総会の決議に基づき、旧プランを更新しております。上記は、更新後のプランの内容の概要並びに具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由を記載しております。

#### 4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 為替相場の変動によるリスク

当社グループの事業には、中国及び米国等における製品の生産と販売が含まれております。各地域における売上及び費用等を含む現地通貨建の項目は、連結財務諸表作成のため円換算されております。従って為替レートの変動は、当社グループの業績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 価格競争のリスク

当社グループは、わが国製鋸業界のパイオニアとして国内におけるリーディングカンパニーであると考えておりますが、近年において中国や欧州に代表される廉価品の市場参入が鮮明となってまいりました。現在は、当社グループ製品の品質が勝っていますが、将来廉価品との価格競争が激化する恐れがあります。今後の価格競争が、当社グループの業績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 海外進出に内在するリスク

当社グループの事業活動は、国内はもとより、中国、米国、欧州等、広く海外のマーケットに展開されております。これら海外市場への事業進出には、以下に掲げるようなリスクが内在しており、当社グループの業績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

進出先における予期しない法律または規制の変更

進出先における政治体制の変化

進出先における人材の採用と確保の困難性

進出先における伝染病の蔓延等による工場操業停止等の可能性

テロ、戦争その他の要因による社会的混乱

##### (4) 自然災害等のリスク

当社グループの企業活動の中心である本社工場は、静岡県にあります。現在、想定されている東海地震に対応できるよう対策を実施していますが、工場の操業が中断されるような事象が発生した場合、当社グループの業績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) O E M顧客への依存リスク

当社グループの電動工具用チップソーは、主としてO E M顧客へ販売しております。O E M製品の売上は、その顧客企業の業績や当社グループが管理できない要因により大きな影響を受けます。また、O E M顧客の要求に応じるための値下げや調達方針の変化等は、当社グループの業績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6 【研究開発活動】

当社の研究開発活動は、鋸刃専門メーカーとして省資源・高能率で環境負荷の少ない切断を目指し市場にかなう最適な刃物を供給出来るように活動してまいりました。

当連結会計年度は小径部門では電池式工具の進化に伴い製品の薄型化と耐久性の向上を併せ持つ製品を開発し生産を始めました。

木材等の高速切断用として課題となっていた振動の極小化を追求したチップソーは形状および材種の改善により切断性能を向上させ生産性に貢献できる高性能・長寿命チップソーを完成させました。

鋼材切断の分野においては、高炭素・高クロム材料切断に適した新材種を投入し、新製品として発売し好評を得ています。

また、コーティング設備は順調に生産量を増やし業績に貢献していますが、切削抵抗の少ない新たな皮膜を追加し切断寿命を延ばすことに成功し拡販を加速しました。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は78百万円です。

当社グループの研究開発活動を、セグメントで示すと「日本」であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。

当社では、特に以下の重要な会計方針が、当社グループの連結財務諸表の作成における重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

#### 貸倒引当金

当社グループは、債権の回収不能時に発生する損失の見積額について貸倒引当金を計上しております。債務者の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる可能性があります。

#### 有形固定資産の減損

当社グループは、有形固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しております。

#### 投資の減損

当社グループは、財務活動の一環として株式等を所有しております。株式等の時価が簿価に対して50%以上下落した場合、または、時価が簿価に対して30%以上50%未満下落し回復不能と判断した場合に減損を実施しております。

#### 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について将来の回収可能性がないと判断した場合は計上しておりません。

#### 退職給付に係る負債

当社の従業員退職給付債務及び退職給付費用は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には、割引率、退職率、年金資産の長期期待運用収益率等が含まれます。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益とも前連結会計年度を大幅に上回る結果となりました。

#### 売上高

売上高は、前連結会計年度に比べ12.0%増の10,026百万円となりました。

連結財務諸表提出会社においても、前連結会計年度に比べ7.1%増の8,641百万円となりました。

#### 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は6,290百万円で、売上原価率は62.7%となり、2.5ポイントの低減となりました。

販売費及び一般管理費は2,405百万円で、対売上高比率は24.0%となり、0.6ポイントの低減となりました。

#### 営業外損益

営業外損益は、前連結会計年度に比べ90百万円（純額）の増加となりました。

#### 特別損益

特別損益は、前連結会計年度に比べ229百万円（純額）の減少となりました。

#### 当期純利益

以上の結果、当期純利益は、前連結会計年度に比べ35.7%増の1,005百万円となりました。

### (3) 資金の流動性及び資本の財源

#### キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの状況については、「1.業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

#### 資本の財源

当社グループの当連結会計年度における運転資金及び設備投資資金等は全額自己資金によって賄っております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループは、新分野及び販売先のニーズに対応できる製品開発に重点を置き、合わせて省力化、合理化及び製品の信頼性向上のための投資を行なっております。

当連結会計年度の設備投資については、グループ全体の機械設備を中心に948百万円の投資を実施いたしました。セグメントごとの設備投資の金額は次のとおりであります。

(単位：千円)

	日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	合計
設備投資の金額	705,560	236,696	6,142		948,399

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成27年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
本社工場 (静岡県袋井市)	日本	チップソー・ 刃物等生産設 備、その他	549,999	1,070,910	100,060 (50.8)	10,721	1,731,690	154 (15)
東京支店 (千葉県習志野市)	日本	その他設備	108,572	24	610,543 (0.8)	527	719,668	12 (1)
大阪支店 (大阪府東大阪市)	日本	その他設備	189,308	0	1,432,812 (1.0)	254	1,622,374	11 (2)

(注) 1 上記の他、秋田支店・北陸営業所等があります。

2 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品で、建設仮勘定は含んでおりません。

3 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書きしております。

##### (2) 在外子会社

平成27年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
天龍製鋸 (中国) 有限公司	中国 河北省 廊坊市	アジア	チップソー・ 刃物等生産設 備、その他	202,346	976,596	[ 39.5 ]	55,556	1,234,500	659
TENRYU AMERICA, INC.	アメリカ ケンタッ キー州 ヘブロン市	アメリカ	その他設備	131,861	21,389	36,944 (14.5)	3,034	193,229	13
TENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD.	タイ ラヨン県 プワック デー市	アジア	チップソー・ 刃物等生産設 備、その他	272,963	491,564	88,178 (19.9)	61,942	914,650	180

(注) 1 天龍製鋸(中国)有限公司は土地を賃借しております。賃借している土地の面積は〔 〕書きしております。

2 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品で、建設仮勘定は含んでおりません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等  
該当事項はありません。
  
- (2) 重要な設備の除却等  
該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,295,268
計	22,295,268

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,573,817	5,573,817	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	5,573,817	5,573,817		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成15年3月31日	215,521	5,573,817		581,335		552,747

(注) 自己株式の消却による減少であります。

#### (6) 【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		11	10	43	6		843	913	
所有株式数 (単元)		6,220	249	6,445	85		42,620	55,619	11,917
所有株式数 の割合(%)		11.18	0.45	11.59	0.15		76.63	100.00	

(注) 自己株式919,081株は「個人その他」に9,190単元、「単元未満株式の状況」に81株含まれております。



(7) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
天龍製鋸社員持株会	静岡県袋井市浅羽3711番地	407	7.32
株式会社静岡銀行	静岡県静岡市葵区呉服町一丁目10番地	227	4.08
鈴木 寛 善	静岡県磐田市	138	2.48
長谷川 任 璋	静岡県浜松市中区	132	2.37
遠州鉄道株式会社	静岡県浜松市中区旭町12番地の1	119	2.14
高 村 博 昭	大阪府吹田市	94	1.69
エイアイユー損害保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	90	1.62
鈴木 良 策	静岡県磐田市	87	1.56
川 島 昭 治	静岡県浜松市北区	86	1.54
株式会社遠鉄トラベル	静岡県浜松市中区旭町12番地の1	80	1.44
計		1,461	26.22

(注) 上記のほか当社所有の自己株式919千株(16.49%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 919,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,642,900	46,429	
単元未満株式	普通株式 11,917		
発行済株式総数	5,573,817		
総株主の議決権		46,429	

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 天龍製鋸株式会社	静岡県袋井市浅羽 3711番地	919,000		919,000	16.49
計		919,000		919,000	16.49

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成26年5月27日)での決議状況 (取得期間平成26年5月28日～平成26年5月28日)	50,000	117,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	43,800	102,492
残存決議株式の総数及び価額の総額	6,200	14,508
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	12.4	12.4
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成27年2月16日)での決議状況 (取得期間平成27年2月17日～平成27年2月17日)	200,000	511,200
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	66,500	169,974
残存決議株式の総数及び価額の総額	133,500	341,226
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	66.8	66.8
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	139	345
当期間における取得自己株式	26	69

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	919,081		919,107	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当期の配当金につきましては、「連結配当性向30%以上とすることを利益配分の基本方針といたしますが、その時々投資計画・資金調達・自己株式取得予定等を総合的に勘案し、配当額を決定いたします。」との配当方針に基づき、1株につき70円の配当としております。

なお、当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会でありま  
す。ただし、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年6月26日 定時株主総会決議	325,831	70.00

### 4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第158期	第159期	第160期	第161期	第162期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	2,350	2,350	2,350	2,850	2,850
最低(円)	1,686	1,900	1,949	2,090	2,199

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日から平成25年7月15日までは大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	2,498	2,495	2,470	2,550	2,730	2,850
最低(円)	2,261	2,380	2,301	2,414	2,487	2,580

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性11名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		西藤 晋吉	昭和26年6月17日	昭和49年4月 平成14年1月 平成15年6月 平成18年10月 平成19年7月 平成25年6月 平成25年9月	当社入社 大阪支店長 取締役営業部長 常務取締役営業担当 龍運工具(廊坊)有限公司董事長(現任) 代表取締役社長(現任) 天龍製鋸(中国)有限公司董事長(現任)	(注)3	21
代表取締役 専務	生産・開発 技術担当	長谷川 清一	昭和28年11月4日	昭和51年4月 平成13年12月 平成15年6月 平成21年7月 平成22年8月 平成25年6月	当社入社 営業部営業二課長兼営業三課長 取締役開発技術部長 常務取締役生産・開発技術担当兼開発 技術部長 TENRYU EUROPE GMBH代表(現任) 代表取締役専務生産・開発技術担当(現 任)	(注)3	57
取締役	営業一部長	鈴木 良典	昭和35年9月24日	昭和58年4月 平成9年7月 平成19年6月 平成22年8月 平成24年6月	当社入社 営業部営業一課長 取締役営業部長 TENRYU AMERICA, INC. プレジデント(現 任) 取締役営業一部長(現任)	(注)3	10
取締役	国際営業 部長	三浦 朗	昭和29年4月24日	平成10年9月 平成22年7月 平成24年6月 平成27年4月	当社入社 営業部貿易課長 TENRYU EUROPE GMBH代表(現任) 取締役国際部長 取締役国際営業部長(現任)	(注)3	2
取締役	営業二部長	大石 高彰	昭和42年8月29日	平成2年4月 平成16年4月 平成22年7月 平成24年6月	当社入社 営業部営業三課長 営業部次長兼営業三課長 取締役営業二部長(現任)	(注)3	5
取締役	海外統括 室長	江原 一也	昭和30年7月4日	昭和53年4月 平成9年7月 平成21年7月 平成22年6月 平成27年4月	当社入社 営業部貿易課長 総務部長 取締役総務部長 取締役海外統括室長(現任)	(注)3	25
取締役	アジア担当	鈴木 達志	昭和40年6月21日	平成3年4月 平成14年12月 平成16年11月 平成25年6月	当社入社 営業部貿易課 TENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD. 代表 (現任) 取締役アジア担当(現任)	(注)3	3
取締役		杉山 明喜雄	昭和32年10月25日	昭和58年9月 平成4年1月 平成19年6月	監査法人太田哲三事務所(現・新日本有 限責任監査法人)入所 杉山明喜雄公認会計士事務所開設 杉山明喜雄税理士事務所開設 当社取締役(現任)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		大 林 和 廣	昭和27年5月11日	昭和50年4月 平成7年4月 平成22年6月	当社入社 北陸営業所長 常勤監査役(現任)	(注)4	10
監査役		丹 羽 俊 文	昭和30年12月25日	昭和60年2月 平成5年6月 平成11年1月	税理士登録 当社監査役(現任) 丹羽俊文税理士事務所開設	(注)4	7
監査役		磯 部 勝 弘	昭和29年3月24日	昭和51年4月 昭和55年3月 昭和58年8月 平成16年6月	監査法人太田哲三事務所(現・新日本有 限責任監査法人)入所 公認会計士磯部勝弘事務所開設 税理士磯部勝弘事務所開設 当社監査役(現任)	(注)4	1
計							142

- (注) 1 取締役杉山明喜雄氏は、社外取締役であります。  
 2 監査役丹羽俊文、監査役磯部勝弘の両氏は、社外監査役であります。  
 3 取締役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 4 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

取締役会は8名の取締役（提出日現在）により構成されており、うち1名は社外取締役であります。取締役会は毎月定例的に開催されるほか、必要により随時開催し、迅速な意思決定と業務執行体制を採っております。また、四半期ごとに全管理職会議を開催し、役員及び管理職を対象に、経営方針の確認、問題点・リスクの把握、コンプライアンス意識の強化等の共通認識を持つよう徹底しております。

子会社管理の体制については「天龍製鋸グループの企業行動規範」に沿って業務を進められるよう、当社の規程を準用し運用状況を報告させる体制を整備するとともに、必要に応じて当社の内部監査部門にて子会社の業務監査を実施いたします。

内部統制については担当者を配置し、定期的に評価・指導・改正を実施しつつ、体制の充実を図っております。

上記の体制は、経営の機動性及び統一性を重視した体制であります。一方で、独立性の高い社外取締役の選任や内部統制の充実等、業務の適正を確保する体制ともなっております。

#### 内部監査及び監査役監査

監査役会は3名の監査役（提出日現在）により構成されており、うち2名は社外監査役であります。監査役は、取締役会を始めとした重要な会議に出席するとともに、経営の重要な決裁資料等を閲覧し、取締役会の業務執行内容及び経営状況の把握・監視に努め、経営上の問題点の指摘並びに改善勧告を積極的に行っております。また当社は、監査役を支援するための内部監査室を設置しており、1名（提出日現在）で構成されております。

監査役会は、会計監査人から適時に報告を受け、情報の共有化を実施しております。また、内部監査室及び内部統制担当と連携し、適切に情報交換を行っております。これらを通じて、取締役会の業務執行の監視及び業務監査の充実を図っております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。

社外取締役杉山明喜雄氏は、杉山明喜雄公認会計士事務所及び杉山明喜雄税理士事務所の所長を兼任しております。杉山氏は、公認会計士として財務及び会計に精通しており、高い識見と幅広い経験のもと、当社の経営の監督機能を強化できる人材と判断し、社外取締役に選任しております。なお、当社と同氏及び各事務所との間に特別な利害関係はありません。

当社は、社外監査役として丹羽俊文氏及び磯部勝弘氏の2名を選任しており、丹羽氏は丹羽俊文税理士事務所所長、磯部氏は公認会計士磯部勝弘事務所及び税理士磯部勝弘事務所の所長を兼任しております。丹羽氏は税理士として、磯部氏は公認会計士として、財務及び会計に精通しており、高い識見と豊富な経験の中で、客観的に当社の経営監視の独立性及び中立性を高めることができる人材と判断し、社外監査役に選任しております。なお、当社と両氏及び各事務所との間に特別な利害関係はありません。

社外取締役及び社外監査役は、取締役会のほか当社の重要な会議に出席するとともに、会計監査人・内部監査室等と情報交換をしながら連携体制を構築しております。

なお、当社は社外役員の独立性に関する基準、方針等は定めておりませんが、選任に当たっては証券取引所の定める独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

#### 役員の報酬等

##### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	101,878	101,878				8
監査役 (社外監査役を除く)	13,206	13,206				1
社外役員	8,407	8,407				3

##### ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額（千円）	対象となる役員の員数（名）	内容
46,158	5	給与及び賞与

ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針の内容

当社の役員報酬は役位別固定報酬と業績連動型報酬から構成され、業績連動型報酬は経営内容等に応じて変動する報酬としております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 17銘柄

貸借対照表計上額の合計額 4,962,241千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的（前事業年度）

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)マキタ	308,042	1,746,602	取引関係等の円滑化のため
(株)静岡銀行	755,500	760,788	取引関係等の円滑化のため
旭ダイヤモンド工業(株)	419,780	551,171	取引関係等の円滑化のため
第一建設工業(株)	337,000	452,591	安定的資本政策を遂行するため
焼津水産化学工業(株)	146,400	138,494	取引関係等の円滑化のため
(株)愛知銀行	25,200	134,064	安定的資本政策を遂行するため
レンゴー(株)	198,000	109,692	取引関係等の円滑化のため
エムケー精工(株)	250,000	85,250	安定的資本政策を遂行するため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	101,134	57,342	取引関係等の円滑化のため
(株)ユーシン	77,300	48,157	安定的資本政策を遂行するため
大同特殊鋼(株)	18,933	9,769	取引関係等の円滑化のため
(株)ウッドワン	9,957	3,226	取引関係等の円滑化のため
タカラスタンダード(株)	3,986	3,153	取引関係等の円滑化のため
JFEホールディングス(株)	942	1,830	取引関係等の円滑化のため
(株)C Kサンエツ	1,100	1,199	取引関係等の円滑化のため

(注) 特定投資株式の(株)ウッドワン、タカラスタンダード(株)、JFEホールディングス(株)及び(株)C Kサンエツは貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、特定投資株式が30銘柄以下であるため、全ての銘柄について記載しております。

(当事業年度)  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)マキタ	311,997	1,946,865	取引関係等の円滑化のため
(株)静岡銀行	755,500	906,600	取引関係等の円滑化のため
旭ダイヤモンド工業(株)	421,061	578,959	取引関係等の円滑化のため
第一建設工業(株)	337,000	459,668	安定的資本政策を遂行するため
(株)愛知銀行	25,200	154,728	安定的資本政策を遂行するため
レンゴー(株)	198,000	100,782	取引関係等の円滑化のため
エムケー精工(株)	250,000	86,000	安定的資本政策を遂行するため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	101,134	75,213	取引関係等の円滑化のため
(株)ユーシン	77,300	60,912	安定的資本政策を遂行するため
大同特殊鋼(株)	18,933	10,185	取引関係等の円滑化のため
タカラスタンダード(株)	4,173	4,240	取引関係等の円滑化のため
(株)ウッドワン	10,591	2,870	取引関係等の円滑化のため
JFEホールディングス(株)	942	2,500	取引関係等の円滑化のため
(株)C Kサンエツ	1,100	1,489	取引関係等の円滑化のため

(注) 特定投資株式のタカラスタンダード(株)、(株)ウッドワン、JFEホールディングス(株)及び(株)C Kサンエツは貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、特定投資株式が30銘柄以下であるため、全ての銘柄について記載しております。

八 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、岩田礼司氏及び鈴木啓市氏であり、ときわ監査法人に所属しております。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名及びその他1名であります。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款で定めております。



株主総会決議事項を取締役会で決議することができることと定めた事項

イ 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

ハ 責任免除

取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できることを目的として、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、同法第423条第1項の取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

ニ 責任限定契約

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会特別決議の定足数を緩和することにより株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	24,160		23,376	
連結子会社				
計	24,160		23,376	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、ときわ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。  
会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,832,458	4,824,655
受取手形及び売掛金	2,538,159	2,523,230
有価証券	1,003,350	901,041
商品及び製品	1,407,109	1,814,023
仕掛品	505,794	569,064
原材料及び貯蔵品	853,667	1,018,550
繰延税金資産	192,499	215,526
その他	153,138	280,510
貸倒引当金	4,842	4,038
流動資産合計	12,481,333	12,142,563
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,242,566	4,344,220
減価償却累計額	2,703,356	2,841,222
建物及び構築物（純額）	1,539,209	1,502,998
機械装置及び運搬具	6,554,965	7,467,366
減価償却累計額	4,544,153	4,909,151
機械装置及び運搬具（純額）	2,010,811	2,558,214
土地	2,294,252	2,292,237
建設仮勘定	150,737	240,980
その他	526,290	567,852
減価償却累計額	391,920	434,894
その他（純額）	134,369	132,958
有形固定資産合計	6,129,381	6,727,389
無形固定資産	2,643	17,911
投資その他の資産		
投資有価証券	6,292,698	7,511,696
出資金	104,933	60,232
長期前払費用	62,647	61,151
その他	597,377	450,270
貸倒引当金	13,633	16,514
投資その他の資産合計	7,044,023	8,066,837
固定資産合計	13,176,049	14,812,138
資産合計	25,657,382	26,954,702

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	524,843	676,218
未払法人税等	303,173	249,967
賞与引当金	186,706	225,451
その他	568,241	586,480
流動負債合計	1,582,966	1,738,118
固定負債		
繰延税金負債	1,090,718	1,102,901
退職給付に係る負債	151,823	210,087
長期未払金	80,980	20,730
その他	45,709	37,494
固定負債合計	1,369,231	1,371,214
負債合計	2,952,197	3,109,332
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	581,335	581,335
資本剰余金	552,747	552,747
利益剰余金	21,097,311	21,506,858
自己株式	1,626,430	1,899,241
株主資本合計	20,604,962	20,741,698
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,244,315	1,589,402
繰延ヘッジ損益	208	234
為替換算調整勘定	816,728	1,455,123
退職給付に係る調整累計額	38,969	58,910
その他の包括利益累計額合計	2,100,222	3,103,671
純資産合計	22,705,185	23,845,369
負債純資産合計	25,657,382	26,954,702

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
売上高	8,951,946	10,026,228
売上原価	1,5 5,832,987	1,5 6,290,979
売上総利益	3,118,958	3,735,249
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	320,742	409,415
広告宣伝費	17,791	17,074
貸倒引当金繰入額	3,909	
役員報酬	115,889	123,492
給料及び手当	689,238	727,618
賞与引当金繰入額	85,012	102,023
退職給付費用	20,921	4,519
福利厚生費	159,130	166,067
旅費及び交通費	174,035	171,070
通信費	23,532	24,526
租税公課	67,320	84,632
研究費	1 82,085	1 52,511
減価償却費	65,411	66,677
車両費	30,657	37,125
保険料	28,712	34,116
その他	317,055	385,090
販売費及び一般管理費合計	2,201,443	2,405,960
営業利益	917,514	1,329,288
営業外収益		
受取利息	32,314	27,816
受取配当金	69,507	81,501
為替差益	118,002	194,377
その他	18,322	27,031
営業外収益合計	238,147	330,726
営業外費用		
支払利息	1,656	1,935
リース解約損	1	657
自己株式取得費用		373
その他	173	594
営業外費用合計	1,831	3,559
経常利益	1,153,830	1,656,455

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2 480	2 1,656
投資有価証券売却益	7,745	1,441
保険解約返戻金	128,901	
特別利益合計	137,128	3,098
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	3 262	3 8,639
固定資産除却損	4 6,567	4 13,710
減損損失		6 28,937
投資有価証券評価損	23	65,400
支払補償金	14,800	
特別損失合計	21,652	116,687
税金等調整前当期純利益	1,269,305	1,542,866
法人税、住民税及び事業税	517,939	556,915
法人税等調整額	10,516	19,512
法人税等合計	528,456	537,402
少数株主損益調整前当期純利益	740,849	1,005,463
当期純利益	740,849	1,005,463

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	740,849	1,005,463
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	476,890	345,086
繰延ヘッジ損益	208	25
為替換算調整勘定	894,119	638,395
退職給付に係る調整額		19,941
その他の包括利益合計	1,371,219	1,003,448
包括利益	2,112,068	2,008,912
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,112,068	2,008,912
少数株主に係る包括利益		

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	581,335	552,747	20,570,896	1,626,314	20,078,664
会計方針の変更による 累積的影響額					
会計方針の変更を反映し た当期首残高	581,335	552,747	20,570,896	1,626,314	20,078,664
当期変動額					
剰余金の配当			214,435		214,435
当期純利益			740,849		740,849
連結範囲の変動					
自己株式の取得				115	115
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計			526,414	115	526,298
当期末残高	581,335	552,747	21,097,311	1,626,430	20,604,962

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	767,425		77,391		690,033	20,768,698
会計方針の変更による 累積的影響額						
会計方針の変更を反映し た当期首残高	767,425		77,391		690,033	20,768,698
当期変動額						
剰余金の配当						214,435
当期純利益						740,849
連結範囲の変動						
自己株式の取得						115
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	476,890	208	894,119	38,969	1,410,188	1,410,188
当期変動額合計	476,890	208	894,119	38,969	1,410,188	1,936,486
当期末残高	1,244,315	208	816,728	38,969	2,100,222	22,705,185



当連結会計年度(自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	581,335	552,747	21,097,311	1,626,430	20,604,962
会計方針の変更による 累積的影響額			93,681		93,681
会計方針の変更を反映し た当期首残高	581,335	552,747	21,003,629	1,626,430	20,511,281
当期変動額					
剰余金の配当			486,047		486,047
当期純利益			1,005,463		1,005,463
連結範囲の変動			16,187		16,187
自己株式の取得				272,811	272,811
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			503,228	272,811	230,417
当期末残高	581,335	552,747	21,506,858	1,899,241	20,741,698

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,244,315	208	816,728	38,969	2,100,222	22,705,185
会計方針の変更による 累積的影響額						93,681
会計方針の変更を反映し た当期首残高	1,244,315	208	816,728	38,969	2,100,222	22,611,503
当期変動額						
剰余金の配当						486,047
当期純利益						1,005,463
連結範囲の変動						16,187
自己株式の取得						272,811
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	345,086	25	638,395	19,941	1,003,448	1,003,448
当期変動額合計	345,086	25	638,395	19,941	1,003,448	1,233,866
当期末残高	1,589,402	234	1,455,123	58,910	3,103,671	23,845,369

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,269,305	1,542,866
減価償却費	497,032	518,609
減損損失		28,937
退職給付引当金の増減額( は減少)	233,217	
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	151,823	59,061
貸倒引当金の増減額( は減少)	1,163	734
賞与引当金の増減額( は減少)	63,659	38,744
長期末払金の増減額( は減少)		60,250
受取利息及び受取配当金	101,822	109,317
投資有価証券売却損益( は益)	7,745	1,441
投資有価証券評価損益( は益)	23	65,400
為替差損益( は益)	115,401	115,016
有形固定資産売却損益( は益)	218	6,982
有形固定資産除却損	6,567	13,710
たな卸資産の増減額( は増加)	196,534	316,708
売上債権の増減額( は増加)	313,857	194,776
仕入債務の増減額( は減少)	103,394	160,798
その他の資産の増減額( は増加)	220,049	17,595
その他の負債の増減額( は減少)	417	7,061
その他	70,420	6,432
小計	1,411,897	1,603,665
法人税等の支払額	461,729	618,218
営業活動によるキャッシュ・フロー	950,168	985,446
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息及び配当金の受取額	106,682	117,348
定期預金の預入による支出	186,635	581,619
定期預金の払戻による収入	371,499	318,406
有価証券の取得による支出	509,240	301,269
有価証券の売却及び償還による収入	100,000	500,000
有形固定資産の取得による支出	430,912	852,168
有形固定資産の売却による収入	19,454	20,026
無形固定資産の取得による支出		18,367
投資有価証券の取得による支出	535,433	1,229,431
投資有価証券の売却及び償還による収入	360,797	153,884
貸付けによる支出	5,150	11,170
貸付金の回収による収入	13,624	13,431
その他	17,635	28,828
投資活動によるキャッシュ・フロー	712,948	1,842,100

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	212,446	485,375
リース債務の返済による支出	14,637	22,232
セール・アンド・リースバック取引による収入	18,120	14,506
自己株式の取得による支出	115	272,811
その他	1,656	1,935
財務活動によるキャッシュ・フロー	210,736	767,849
現金及び現金同等物に係る換算差額	281,056	250,699
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	307,538	1,373,803
現金及び現金同等物の期首残高	4,847,816	5,155,355
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		12,963
現金及び現金同等物の期末残高	5,155,355	3,794,515

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

連結子会社の名称 天龍製鋸(中国)有限公司

TENRYU AMERICA, INC.

TENRYU SAW (THAILAND) CO., LTD.

TENRYU EUROPE GMBH

前連結会計年度において非連結子会社であったTENRYU EUROPE GMBHは、重要性が増した

こ

とにより当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の名称 龍蓮工具(廊坊)有限公司

TENRYU SAW INDIA PRIVATE LIMITED

TENRYU SAW DE MEXICO, S.A. DE C.V.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社3社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社はありません。

持分法を適用していない非連結子会社(龍蓮工具(廊坊)有限公司、TENRYU SAW INDIA PRIVATE LIMITED、TENRYU SAW DE MEXICO, S.A. DE C.V.)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、いずれも12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

製品・原材料・仕掛品

.....主に総平均法

商 品.....主に移動平均法

貯蔵品.....主に最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社は定率法を採用しております。但し、平成10年4月以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

子会社は主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	8～47年
機械装置及び運搬具	4～10年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払いに充てるため、年間支給見込額を計上しております。

なお、当連結会計年度末に負担すべき金額がないため、計上しておりません。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

臨時従業員における簡便法の採用

臨時従業員には、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...外貨建予定取引

ヘッジ方針

デリバティブ取引を債権債務の範囲内かつリスクのヘッジ目的で行うことを基本方針としており、投機目的のためにはデリバティブ取引を利用しない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

為替相場の変動によるキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定されるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が143,683千円増加し、利益剰余金が93,681千円減少しております。また、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ2,862千円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めておりました「リース解約損」は、重要性が高まったため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた174千円は、「リース解約損」1千円、「その他」173千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(株式)	109,476千円	44,104千円
出資金	104,303千円	59,602千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
一般管理費	82,085千円	52,511千円
当期製造費用	32,048千円	26,390千円
計	114,133千円	78,901千円

2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
機械装置及び運搬具	478千円	1,509千円
その他(工具、器具及び備品)	2千円	146千円
計	480千円	1,656千円

3 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物		737千円
機械装置及び運搬具	242千円	
土地		7,901千円
その他(工具、器具及び備品)	19千円	
計	262千円	8,639千円

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物	1,071千円	327千円
機械装置及び運搬具	5,130千円	13,258千円
その他(工具、器具及び備品)	365千円	125千円
計	6,567千円	13,710千円

5 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上原価	7,034千円	6,703千円

6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

場所	設備の内容	種類
秋田県秋田市	賃貸用マンション	建物及び構築物、土地

当社は、原則として、賃貸用不動産については、施設単位を基準としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、収益性の低下等によりそれぞれの資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(28,937千円)として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物22,731千円、土地6,205千円であります。なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	741,863千円	409,861千円
組替調整額	7,745千円	1,441千円
税効果調整前	734,117千円	408,420千円
税効果額	257,226千円	63,334千円
その他有価証券評価差額金	476,890千円	345,086千円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	278千円	11,617千円
組替調整額		11,583千円
税効果調整前	278千円	34千円
税効果額	69千円	8千円
繰延ヘッジ損益	208千円	25千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	894,119千円	638,395千円
組替調整額		
税効果調整前	894,119千円	638,395千円
税効果額		
為替換算調整勘定	894,119千円	638,395千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額		48,412千円
組替調整額		22,054千円
税効果調整前		26,357千円
税効果額		6,416千円
退職給付に係る調整額		19,941千円
その他の包括利益合計	1,371,219千円	1,003,448千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,573,817			5,573,817

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	808,592	50		808,642

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 50株



### 3 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	214,435	45.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	486,047	102.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(注) 1株当たり配当額には記念配当55円が含まれております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

#### 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,573,817			5,573,817

#### 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	808,642	110,439		919,081

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

平成26年5月27日の取締役会の決議による自己株式の取得 43,800株

平成27年2月16日の取締役会の決議による自己株式の取得 66,500株

単元未満株式の買取りによる増加 139株

### 3 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	486,047	102.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(注) 1株当たり配当額には記念配当55円が含まれております。

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	325,831	70.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金	5,832,458千円	4,824,655千円
有価証券	1,003,350千円	901,041千円
計	6,835,808千円	5,725,696千円
預入期間が3か月超の定期預金	1,177,102千円	1,530,139千円
償還期間が3か月超の債券等	503,350千円	401,041千円
現金及び現金同等物	5,155,355千円	3,794,515千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
1年以内	20,609千円	23,308千円
1年超	82,016千円	74,098千円
計	102,625千円	97,406千円

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
1年以内	1,919千円	1,912千円
1年超		
計	1,919千円	1,912千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用しており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金は営業債権であり、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は主に国債・社債・株式であり、価格変動リスク及び信用リスクに晒されております。

支払手形及び買掛金は営業債務であり、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。これらは、流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、主に外貨建ての営業債権に係る為替変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、営業業務管理規程に沿った与信管理を通じリスクの低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、取締役会で定期的な時価・信用格付等の把握を通じリスクの低減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、総務部が常時資金繰りを把握し、流動性リスクの管理をしております。

外貨建営業債権及び外貨建予定取引について、将来の変動リスクに対して為替予約を利用してヘッジしております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

科目	連結貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	5,832,458	5,832,458	
受取手形及び売掛金	2,538,159	2,538,159	
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	6,615,344	6,615,344	
支払手形及び買掛金	(524,843)	(524,843)	
デリバティブ取引(2)	278	278	

(1) 負債に計上されているものについては、( )で表示しております。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

科目	連結貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	4,824,655	4,824,655	
受取手形及び売掛金	2,523,230	2,523,230	
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	7,797,406	7,797,406	
支払手形及び買掛金	(676,218)	(676,218)	
デリバティブ取引( 2 )	313	313	

- ( 1 ) 負債に計上されているものについては、( )で表示しております。  
( 2 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は市場価格等によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

(3) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	平成26年3月31日	平成27年3月31日
非上場株式	680,703	615,331

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度において、非上場株式について65,400千円の減損処理を行っております。

(注3) 金融債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	5,832,458			
受取手形及び売掛金	2,538,159			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(国債)		100,020		
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	503,350	907,862	500,780	
合計	8,873,968	1,007,882	500,780	

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	4,824,655			
受取手形及び売掛金	2,523,230			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(国債)	100,070			
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	300,971	1,904,430	500,270	
その他有価証券のうち満期があるもの(その他)	500,000			
合計	8,248,926	1,904,430	500,270	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日現在)

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	3,906,911	2,008,904	1,898,006
債券	906,751	900,000	6,751
その他			
小計	4,813,662	2,908,904	1,904,757
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	196,421	212,455	16,033
債券	1,105,261	1,105,902	641
その他	500,000	500,000	
小計	1,801,682	1,818,357	16,674
合計	6,615,344	4,727,262	1,888,082

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理は行っておりません。

2 減損処理の基準

時価のある有価証券が次の条件に合致する場合、減損処理を行います。

評価日において時価が簿価に対して50%以上下落した場合、減損処理を行います。

評価日において時価が簿価に対して30%以上50%未満下落している場合は、有価証券の発行会社の外部信用格付や公表財務諸表ベースでの各種財務比率の検討等により、総合的に回復可能性を判断して減損処理を行います。

当連結会計年度(平成27年3月31日現在)

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	4,391,014	2,094,504	2,296,510
債券	1,507,115	1,501,653	5,461
その他	100,650	100,250	400
小計	5,998,779	3,696,407	2,302,371
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式			
債券	1,298,626	1,304,495	5,868
その他	500,000	500,000	
小計	1,798,626	1,804,495	5,868
合計	7,797,406	5,500,902	2,296,503

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理は行っておりません。

2 減損処理の基準

時価のある有価証券が次の条件に合致する場合、減損処理を行います。

評価日において時価が簿価に対して50%以上下落した場合、減損処理を行います。

評価日において時価が簿価に対して30%以上50%未満下落している場合は、有価証券の発行会社の外部信用格付や公表財務諸表ベースでの各種財務比率の検討等により、総合的に回復可能性を判断して減損処理を行います。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	260,797	7,745	

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	153,884	1,441	

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
繰延ヘッジ処理	為替予約取引 売建米ドル	外貨建予定取引	222,489		278
合計			222,489		278

(注) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
繰延ヘッジ処理	為替予約取引 売建日本円	外貨建予定取引	150,000		313
合計			150,000		313

(注) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付企業年金法に基づく確定給付年金制度及び退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、臨時従業員の退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,404,193		1,376,852	
会計方針の変更による累積的影響額			143,683	
会計方針の変更を反映した期首残高	1,404,193		1,520,535	
勤務費用	36,438		41,472	
利息費用	23,871		12,164	
数理計算上の差異の発生額	884		79,132	
退職給付の支払額	86,766		107,307	
退職給付債務の期末残高	1,376,852		1,545,996	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
年金資産の期首残高	1,134,903		1,228,161	
期待運用収益	28,372		22,106	
数理計算上の差異の発生額	83,543		127,544	
事業主からの拠出額	68,108		68,879	
退職給付の支払額	86,766		107,307	
年金資産の期末残高	1,228,161		1,339,385	

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	3,007		3,133	
退職給付費用	548		539	
退職給付の支払額	422		196	
退職給付に係る負債の期末残高	3,133		3,476	

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,376,852	1,545,996
年金資産	1,228,161	1,339,385
	148,690	206,611
非積立型制度の退職給付債務	3,133	3,476
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	151,823	210,087
退職給付に係る負債	151,823	210,087
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	151,823	210,087

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
勤務費用	36,438	41,472
利息費用	23,871	12,164
期待運用収益	28,372	22,106
数理計算上の差異の費用処理額	14,420	22,054
簡便法で計算した退職給付費用	548	539
確定給付制度に係る退職給付費用	46,905	10,013

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
数理計算上の差異		26,357

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
未認識数理計算上の差異	59,768	86,126

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
債券	42%	44%
株式	41%	38%
その他	17%	18%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。



(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
割引率	1.7%	0.8%
長期期待運用収益率	2.5%	1.8%

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
(流動資産)		
繰延税金資産		
賞与引当金	64,973千円	72,820千円
未払事業税	20,700千円	15,410千円
たな卸資産に含まれる 未実現利益の相殺消去額	64,135千円	84,479千円
その他	48,223千円	48,823千円
繰延税金資産合計	198,032千円	221,534千円
繰延税金負債		
子会社の留保利益金 債権債務の相殺消去に係る 貸倒引当金の修正額	3,480千円 232千円	3,230千円
その他	1,820千円	2,778千円
繰延税金負債合計	5,533千円	6,008千円
繰延税金資産の純額	192,499千円	215,526千円
(固定資産・固定負債)		
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	73,634千円	66,398千円
会員権評価損	70,067千円	84,291千円
その他	74,209千円	53,209千円
繰延税金資産小計	217,911千円	203,899千円
評価性引当額	73,295千円	89,183千円
繰延税金資産合計	144,615千円	114,716千円
繰延税金負債		
建物圧縮積立金	57,086千円	49,023千円
土地圧縮積立金	411,069千円	373,269千円
その他有価証券評価差額金	643,766千円	707,100千円
子会社の留保利益金	17,521千円	14,992千円
その他	104,061千円	68,706千円
繰延税金負債合計	1,233,506千円	1,213,092千円
繰延税金資産の純額	1,827千円	4,524千円
繰延税金負債の純額	1,090,718千円	1,102,901千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	37.2%	
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	11.6%	
受取配当金連結消去に伴う影響額	10.4%	
子会社の税務上の繰越欠損金	3.0%	
子会社の留保利益金	1.7%	
その他	0.6%	
税効果適用後の法人税等の負担率	41.6%	

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の34.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは32.3%、平成28年4月1日以降のものについては31.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が10,573千円、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が109,386千円、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が27,207千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金の金額が71,605千円、退職給付に係る調整累計額が2,756千円それぞれ増加しております。

#### （資産除去債務関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

#### （賃貸等不動産関係）

賃貸等不動産の総額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に鋸・刃物類を製造・販売しており、国内においては当社が、海外においてはアジア、アメリカ等の各地域の現地法人が担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品については各地域において包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製造・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」「アジア」「アメリカ」「ヨーロッパ」の4つを報告セグメントとしております。

当連結会計年度より、TENRYU EUROPE GMBHを連結の範囲に含めたことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「日本」「アジア」「アメリカ」から、「日本」「アジア」「アメリカ」「ヨーロッパ」に変更しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成の基準と同一です。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部利益及び振替高は第三者間取引価格に基づいております。

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「日本」のセグメント利益が2,862千円減少しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
	日本	アジア	アメリカ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,822,523	943,244	1,186,178	8,951,946		8,951,946
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,244,778	2,018,052	202	3,263,033	3,263,033	
計	8,067,301	2,961,297	1,186,381	12,214,980	3,263,033	8,951,946
セグメント利益又は損失 ( )	810,354	95,386	174,031	888,999	28,515	917,514
セグメント資産	20,915,026	4,806,544	1,114,676	26,836,248	1,178,865	25,657,382
その他の項目						
減価償却費	242,662	267,880	8,230	518,772	21,740	497,032
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	243,697	191,894	15,194	450,787	9,530	441,256

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (2) セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
	日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,796,002	1,342,255	1,421,878	466,093	10,026,228		10,026,228
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,845,007	2,325,910	5,998	47,747	4,224,663	4,224,663	
計	8,641,009	3,668,166	1,427,877	513,840	14,250,892	4,224,663	10,026,228
セグメント利益	1,062,108	18,519	217,823	60,543	1,358,994	29,706	1,329,288
セグメント資産	21,219,465	5,565,220	1,327,528	334,030	28,446,244	1,491,541	26,954,702
その他の項目							
減価償却費	253,499	275,055	8,334	213	537,103	18,493	518,609
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	726,894	246,858	6,862		980,615	13,848	966,767

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (2) セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	鋸・刃物類	その他	合計
外部顧客への売上高	8,615,872	336,074	8,951,946

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	その他の地域	合計
5,572,892	1,449,441	1,261,474	495,154	172,983	8,951,946

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

2 国または地域の区分の方法及び各区分に属する主な国または地域

(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国または地域

  アジア.....中国・韓国・タイ

  アメリカ.....アメリカ

  ヨーロッパ.....ドイツ・フランス

  その他.....オーストラリア・ニュージーランド

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	アメリカ	合計
3,970,764	1,987,831	170,785	6,129,381

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)マキタ	1,393,543	日本

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	鋸・刃物類	その他	合計
外部顧客への売上高	9,731,908	294,320	10,026,228

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	その他の地域	合計
5,619,535	1,913,160	1,542,012	715,241	236,278	10,026,228

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

2 国または地域の区分の方法及び各区分に属する主な国または地域

(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国または地域

アジア.....中国・韓国・タイ

アメリカ.....アメリカ

ヨーロッパ.....ドイツ・フランス

その他.....オーストラリア・ニュージーランド

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	合計
4,371,612	2,162,074	193,229	473	6,727,389

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)マキタ	1,477,758	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

該当事項ありません。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位:千円)

日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	合計
28,937				28,937

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	4,764.82円	5,122.82円
1株当たり当期純利益金額	155.47円	213.12円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	740,849	1,005,463
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	740,849	1,005,463
普通株式の期中平均株式数(株)	4,765,188	4,717,831

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	22,705,185	23,845,369
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	22,705,185	23,845,369
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	4,765,175	4,654,736

4. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。  
この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が20.13円減少し、1株当たり当期純利益金額が0.41円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	16,383	16,971		
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	43,336	35,021		平成28年4月～ 平成32年10月
合計	59,720	51,993		

(注) 1. リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	13,737	8,781	7,138	3,954

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,352,801	4,745,592	7,269,059	10,026,228
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	308,067	854,464	1,348,199	1,542,866
四半期(当期) 純利益金額 (千円)	181,763	535,901	857,077	1,005,463
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	38.32	113.21	181.20	213.12

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	38.32	75.01	68.03	31.65



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,526,335	3,081,224
受取手形	569,873	574,551
売掛金	2,109,412	2,334,351
有価証券	1,003,350	901,041
商品	286,625	290,833
製品	571,927	694,270
原材料	239,490	242,207
仕掛品	214,889	225,681
貯蔵品	44,341	56,654
前渡金	2,086	
前払費用	17,238	17,410
繰延税金資産	133,129	136,606
その他	243,815	274,990
貸倒引当金	4,981	1,911
流動資産合計	9,957,535	8,827,913
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,800,438	2,774,508
減価償却累計額	2,045,087	2,078,947
建物（純額）	755,350	695,561
構築物	466,576	466,794
減価償却累計額	252,948	266,529
構築物（純額）	213,627	200,264
機械及び装置	2,831,813	3,106,711
減価償却累計額	2,177,698	2,038,312
機械及び装置（純額）	654,114	1,068,398
車両運搬具	23,213	23,213
減価償却累計額	18,744	20,458
車両運搬具（純額）	4,469	2,755
工具、器具及び備品	85,989	55,367
減価償却累計額	77,567	43,415
工具、器具及び備品（純額）	8,421	11,951
土地	2,184,396	2,167,114
建設仮勘定	150,383	228,057
有形固定資産合計	3,970,764	4,374,103
無形固定資産		
ソフトウェア	744	16,012
その他	1,899	1,899
無形固定資産合計	2,643	17,911

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	6,183,221	7,467,591
関係会社株式	1,440,797	1,494,099
出資金	630	630
関係会社出資金	1,200,012	1,200,012
従業員に対する長期貸付金	65,111	43,724
長期前払費用	15,738	12,779
その他	519,445	387,857
貸倒引当金	13,633	16,514
投資その他の資産合計	9,411,324	10,590,181
<b>固定資産合計</b>	<b>13,384,732</b>	<b>14,982,196</b>
<b>資産合計</b>	<b>23,342,268</b>	<b>23,810,109</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	139,976	178,976
買掛金	425,176	338,964
リース債務	16,383	16,971
未払金	131,523	92,658
未払費用	138,731	157,429
未払法人税等	289,134	199,082
前受金	19,058	6,400
預り金	9,457	9,576
賞与引当金	186,706	225,451
その他	192	
流動負債合計	1,356,341	1,225,511
<b>固定負債</b>		
リース債務	43,336	35,021
繰延税金負債	1,074,144	1,080,575
退職給付引当金	211,592	296,214
その他	83,353	23,203
固定負債合計	1,412,427	1,435,014
<b>負債合計</b>	<b>2,768,768</b>	<b>2,660,525</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	581,335	581,335
資本剰余金		
資本準備金	552,747	552,747
資本剰余金合計	552,747	552,747
利益剰余金		
利益準備金	148,863	148,863
その他利益剰余金		
配当積立金	500,000	500,000
退職給与積立金	350,000	350,000
建設準備積立金	1,000,000	1,000,000
研究開発積立金	1,000,000	1,000,000
公害防止準備金	500,000	500,000
記念事業準備金	100,000	100,000
海外市場開拓準備金	1,500,000	1,500,000
土地圧縮積立金	770,164	807,963
建物圧縮積立金	106,955	105,920
償却資産圧縮積立金	1,034	983
別途積立金	2,000,000	2,000,000
繰越利益剰余金	11,844,512	12,311,609
利益剰余金合計	19,821,531	20,325,341
自己株式	1,626,430	1,899,241
株主資本合計	19,329,183	19,560,181
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,244,315	1,589,402
評価・換算差額等合計	1,244,315	1,589,402
純資産合計	20,573,499	21,149,584
負債純資産合計	23,342,268	23,810,109

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	2 5,625,562	2 6,029,370
商品売上高	2 2,381,463	2 2,546,732
その他の営業収入	1 60,275	1 64,906
<b>売上高合計</b>	<b>8,067,301</b>	<b>8,641,009</b>
<b>売上原価</b>		
商品及び製品期首たな卸高	865,181	858,553
当期製品製造原価	2 3,677,599	2 3,937,424
当期商品仕入高	2 1,950,342	2 2,161,095
その他の原価	16,007	16,210
<b>合計</b>	<b>6,509,130</b>	<b>6,973,284</b>
他勘定振替高	16,653	13,958
商品及び製品期末たな卸高	858,553	985,104
<b>売上原価合計</b>	<b>5,633,923</b>	<b>5,974,222</b>
<b>売上総利益</b>	<b>2,433,378</b>	<b>2,666,786</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>		
荷造及び発送費	171,423	203,526
貸倒引当金繰入額	3,842	197
役員報酬	115,889	123,492
給料及び手当	537,068	511,660
賞与引当金繰入額	85,012	102,023
退職給付引当金繰入額	20,921	4,519
研究費	82,085	52,511
減価償却費	47,029	48,328
その他	559,752	558,418
<b>販売費及び一般管理費合計</b>	<b>1,623,023</b>	<b>1,604,677</b>
<b>営業利益</b>	<b>810,354</b>	<b>1,062,108</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1,636	2,372
有価証券利息	10,302	9,893
受取配当金	2 423,889	2 356,991
不動産賃貸料	3,439	3,352
為替差益	150,635	161,361
その他	8,621	19,705
<b>営業外収益合計</b>	<b>598,524</b>	<b>553,678</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1,656	1,935
リース解約損	1	657
自己株式取得費用		373
その他	83	106
<b>営業外費用合計</b>	<b>1,742</b>	<b>3,072</b>
<b>経常利益</b>	<b>1,407,137</b>	<b>1,612,714</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3 2	
投資有価証券売却益	7,745	1,441
保険解約返戻金	128,901	
特別利益合計	136,649	1,441
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損		4 8,639
固定資産除却損	5 5,642	5 12,347
減損損失		28,937
投資有価証券評価損	23	
関係会社株式評価損		65,400
支払補償金	14,800	
特別損失合計	20,466	115,324
税引前当期純利益	1,523,320	1,498,832
法人税、住民税及び事業税	458,456	425,671
法人税等調整額	21,130	10,378
法人税等合計	437,326	415,293
当期純利益	1,085,994	1,083,539

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				配当積立金	退職給与積立金	建設準備積立金	研究開発積立金
当期首残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000
会計方針の変更による累積的影響額							
会計方針の変更を反映した当期首残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
土地圧縮積立金の取崩							
建物圧縮積立金の取崩							
償却資産圧縮積立金の取崩							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計							
当期末残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000

	株主資本						
	利益剰余金						
	その他利益剰余金						
	公害防止準備金	記念事業準備金	海外市場開拓準備金	土地圧縮積立金	建物圧縮積立金	償却資産圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	500,000	100,000	1,500,000	770,164	112,662	1,289	2,000,000
会計方針の変更による累積的影響額							
会計方針の変更を反映した当期首残高	500,000	100,000	1,500,000	770,164	112,662	1,289	2,000,000
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
土地圧縮積立金の取崩							
建物圧縮積立金の取崩					5,706		
償却資産圧縮積立金の取崩						255	
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計					5,706	255	
当期末残高	500,000	100,000	1,500,000	770,164	106,955	1,034	2,000,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
	その他 利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	10,966,991	18,949,972	1,626,314	18,457,739	767,425	767,425	19,225,164
会計方針の変更による累 積的影響額							
会計方針の変更を反映し た当期首残高	10,966,991	18,949,972	1,626,314	18,457,739	767,425	767,425	19,225,164
当期変動額							
剰余金の配当	214,435	214,435		214,435			214,435
当期純利益	1,085,994	1,085,994		1,085,994			1,085,994
土地圧縮積立金の取崩							
建物圧縮積立金の取崩	5,706						
償却資産圧縮積立金の 取崩	255						
自己株式の取得			115	115			115
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					476,890	476,890	476,890
当期変動額合計	877,521	871,559	115	871,443	476,890	476,890	1,348,334
当期末残高	11,844,512	19,821,531	1,626,430	19,329,183	1,244,315	1,244,315	20,573,499

当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				配当積立金	退職給与積立金	建設準備積立金	研究開発積立金
当期首残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000
会計方針の変更による累 積的影響額							
会計方針の変更を反映し た当期首残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
土地圧縮積立金の取崩							
建物圧縮積立金の取崩							
償却資産圧縮積立金の 取崩							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計							
当期末残高	581,335	552,747	148,863	500,000	350,000	1,000,000	1,000,000

	株主資本						
	利益剰余金						
	その他利益剰余金						
	公害防止準備金	記念事業準備金	海外市場開拓準備金	土地圧縮積立金	建物圧縮積立金	償却資産圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	500,000	100,000	1,500,000	770,164	106,955	1,034	2,000,000
会計方針の変更による累積的影響額							
会計方針の変更を反映した当期首残高	500,000	100,000	1,500,000	770,164	106,955	1,034	2,000,000
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
土地圧縮積立金の取崩				37,799			
建物圧縮積立金の取崩					1,035		
償却資産圧縮積立金の取崩						51	
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計				37,799	1,035	51	
当期末残高	500,000	100,000	1,500,000	807,963	105,920	983	2,000,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
	その他 利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	11,844,512	19,821,531	1,626,430	19,329,183	1,244,315	1,244,315	20,573,499
会計方針の変更による累積的影響額	93,681	93,681		93,681			93,681
会計方針の変更を反映した当期首残高	11,750,831	19,727,850	1,626,430	19,235,501	1,244,315	1,244,315	20,479,817
当期変動額							
剰余金の配当	486,047	486,047		486,047			486,047
当期純利益	1,083,539	1,083,539		1,083,539			1,083,539
土地圧縮積立金の取崩	37,799						
建物圧縮積立金の取崩	1,035						
償却資産圧縮積立金の取崩	51						
自己株式の取得			272,811	272,811			272,811
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					345,086	345,086	345,086
当期変動額合計	560,778	597,491	272,811	324,680	345,086	345,086	669,766
当期末残高	12,311,609	20,325,341	1,899,241	19,560,181	1,589,402	1,589,402	21,149,584



## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式

移動平均法による原価法

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

製品、原材料及び仕掛品は総平均法、商品は移動平均法、貯蔵品は最終仕入原価法により評価しております。

### 3 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。但し、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 8～47年

機械及び装置 10年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

### 4 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払いに充てるため、年間支給見込額を計上しております。

なお、当事業年度末に負担すべき金額がないため、計上しておりません。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定率法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## 5 その他財務諸表作成のための重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっていません。

### (2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

### (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。)を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減してあります。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が143,683千円増加し、繰越利益剰余金が93,681千円減少しております。また、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ2,862千円減少しております。

なお、当事業年度の1株当たり純資産額が20.13円減少し、1株当たり当期純利益金額が0.41円減少しております。

### (表示方法の変更)

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めておりました「リース解約損」は、重要性が高まったため、当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた85千円は、「リース解約損」1千円、「その他」83千円として組み替えております。

## (貸借対照表関係)

## 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
売掛金	919,984千円	1,256,258千円

## (損益計算書関係)

- 1 その他の営業収入の内容は、次のとおりであります。

賃貸料及びロイヤルティ収入であります。

- 2 関係会社との取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	1,633,097千円	2,034,052千円
仕入高等	2,067,346千円	2,349,395千円
受取配当金	354,381千円	277,490千円

- 3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
工具、器具及び備品	2千円	

- 4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物		737千円
土地		7,901千円
計		8,639千円

- 5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物	1,071千円	327千円
機械及び装置	4,418千円	11,944千円
工具、器具及び備品	153千円	75千円
計	5,642千円	12,347千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
子会社株式	1,440,797	1,494,099

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>(流動資産)</b>		
繰延税金資産		
賞与引当金	64,973千円	72,820千円
未払事業税	20,700千円	15,410千円
たな卸資産評価損	35,142千円	34,493千円
その他	12,312千円	13,881千円
繰延税金資産合計	133,129千円	136,606千円
<b>(固定負債)</b>		
繰延税金資産		
退職給付引当金	73,634千円	93,614千円
投資有価証券評価損	45,101千円	40,954千円
関係会社株式評価損		20,666千円
ゴルフ会員権評価損	24,965千円	22,669千円
その他	37,564千円	23,753千円
繰延税金資産小計	181,266千円	201,659千円
評価性引当額	73,295千円	89,183千円
繰延税金資産合計	107,970千円	112,476千円
繰延税金負債		
建物圧縮積立金	57,086千円	49,023千円
土地圧縮積立金	411,069千円	373,269千円
その他有価証券評価差額金	643,766千円	707,100千円
その他	70,191千円	63,657千円
繰延税金負債合計	1,182,114千円	1,193,051千円
繰延税金負債の純額	1,074,144千円	1,080,575千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	37.2%	34.8%
<b>(調整)</b>		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	0.2%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	9.1%	7.0%
外国税額控除	0.6%	0.4%
評価性引当額の増加		1.7%
税率変更による影響額		1.8%
その他	0.9%	0.2%
税効果適用後の法人税等の負担率	28.7%	27.7%

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の34.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは32.3%、平成28年4月1日以降のものについては31.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が10,573千円、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が109,386千円、当事業年度に計上された法人税等調整額が27,207千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金の金額が71,605千円増加しております。

#### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,800,438	13,122	39,052 (22,369)	2,774,508	2,078,947	47,787	695,561
構築物	466,576	580	361 (361)	466,794	266,529	13,581	200,264
機械及び装置	2,831,813	616,553	341,655	3,106,711	2,038,312	179,061	1,068,398
車両運搬具	23,213			23,213	20,458	1,714	2,755
工具、器具及び備品	85,989	13,900	44,522	55,367	43,415	8,254	11,951
土地	2,184,396		17,282 (6,205)	2,167,114			2,167,114
建設仮勘定	150,383	607,780	530,106	228,057			228,057
有形固定資産計	8,542,812	1,251,936	972,981 (28,937)	8,821,767	4,447,663	250,399	4,374,103
無形固定資産							
ソフトウェア	148,115	18,367		166,483	150,470	3,100	16,012
その他	1,899			1,899			1,899
無形固定資産計	150,014	18,367		168,382	150,470	3,100	17,911
長期前払費用	15,738	154	3,112	12,779			12,779

(注) 1 増加額の主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	チップソー研磨機	182,425千円
機械及び装置	PVD装置	294,833千円
建設仮勘定	PVD装置	207,460千円

2 減少額の主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	セール・アンド・リースバック取引による売却	242,422千円
--------	-----------------------	-----------

なお、当期減少額のうち( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	18,614	5,313	385	5,116	18,426
賞与引当金	186,706	225,451	186,706		225,451

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄は、一般債権の貸倒実績率による洗替額等であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.tenryu-saw.com">http://www.tenryu-saw.com</a>
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当社は、単元未満株式について、定款で次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第161期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）平成26年6月30日東海財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成26年6月30日東海財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第162期第1四半期（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）平成26年8月12日東海財務局長に提出。

第162期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）平成26年11月13日東海財務局長に提出。

第162期第3四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）平成27年2月13日東海財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成26年7月2日東海財務局長に提出。

#### (5) 自己株券買付状況報告書

平成27年3月4日東海財務局長に提出。

#### (6) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第161期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）平成26年11月20日東海財務局長に提出。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年6月26日

天龍製鋸株式会社  
取締役会 御中

ときわ監査法人

代表社員 公認会計士 岩田 礼 司 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 鈴木 啓 市 印  
業務執行社員

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている天龍製鋸株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、天龍製鋸株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、天龍製鋸株式会社の平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、天龍製鋸株式会社が平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月26日

天龍製鋸株式会社  
取締役会 御中

ときわ監査法人

代表社員 公認会計士 岩田礼司 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 鈴木啓市 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている天龍製鋸株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第162期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、天龍製鋸株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。